

1.3.1.1-17

「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い

<1> 「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の表現(P2)

<2> 「食べる」の尊敬語表現 (P3)

<3> 「食べる」の謙讓語表現(P4)

「食べる」の謙讓語を正しく使うための注意点(P5)

<4> 「食べる」の丁寧語表現 (P6)

<5> 「食べる」の尊敬語・謙讓語・丁寧語の誤用例と参考出典情報 (P7)

資料作成: 日本語ナレッジ推進委員会第2組より作成します。

・作成メンバー: 崔湘寧、唐名澤、李重陽、宋雪明、楊顏華

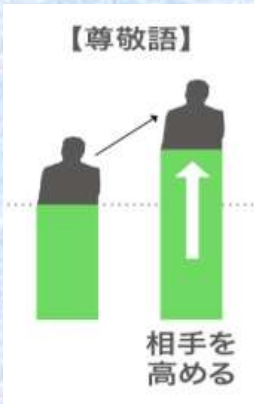
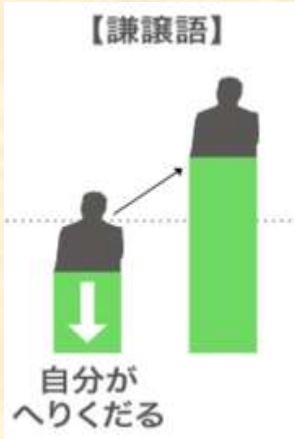
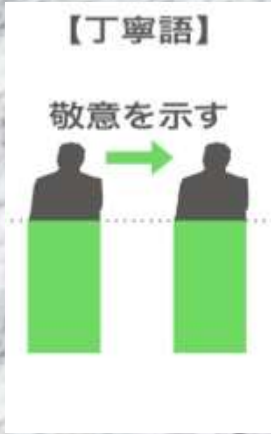
・一次レビュー者: 崔湘寧(組長)

最終レビュー・補記訂正者: 石井さん

1.3.1.1-17「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い



「食べる」の尊敬語、謙讓語、丁寧語の表現

基本形	尊敬語	謙讓語	丁寧語
食べる	召し上がる お食べになる 食べられる	いただく 頂戴する	食べます
敬意を表す方向			
使用方法	相手の動作や状態に使う。 相手や相手の動作、状態などを直接的に高める。	自分の動作・状態に使うもの。 自分がへりくだり、それにより間接的に相手を高める言い方です。	聞き手に対して丁寧に述べる言葉。 「です」「ます」をつけて使う。 相手・内容を問わない。



1.3.1.1-17「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い

「食べる」の尊敬語表現：「召し上がる」「お食べになる」「食べられる」

- ◇「食べる」の尊敬語には「召し上がる」「お食べになる」「食べられる」があります。
- ◇「食べる」の尊敬語を敬意の高い順に並べると、以下のようになります。
 - ※「召し上がる」>「お食べになる」>「食べられる」
- ◇「食べる」の敬語表現でよくある誤りは「お召し上がりください」です。
 - 「召し上がる」がすでに尊敬表現の敬語なので、それに丁寧な表現として「お～」をつけると、**二重敬語**になります。
 - 厳密に言えば誤りですが、一般的には許容されている範囲で、使っても非常識とまではなりません。しかし、「お召し上がりになられる」のようにさらに敬語が加わると、くどくなりますし、敬語の使い方としても明らかな間違いになります。
 - 同じように、「**お食べになられる**」もNGです。
- ◇「食べられる」は「食べることができる」という可能の表現法としても用いられ、「受身」としても用いられるため、なるべく避けたほうが無難です。代わりに「夕食はもうお済ませになりましたか」のように使うとよいです。

参考リンク：<https://eigobu.jp/magazine/meshiagaru>

「食べる」尊敬語の使用例

- ・夕食はもう食べられましたか。
- ・どうぞ、お食べになって下さい。
- ・事務所の皆さんで召し上がってください。
- ・給湯室におみやげのお菓子がありますのでご自由にお食べください。



1.3.1.1-17「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い



「食べる」謙讓語表現：「いただく」「頂戴する」

- ◇ 「食べる」の謙讓語は「いただく」「頂戴する」の2つです。
お客様や目上の人を前にして自分が食べる場合は謙讓語「頂戴する」「いただく」を用いることになりますが、「ものをもらった時」に相手に感謝の気持ちを込めて放つ言葉としても使えます。
- ◇ 「いただく」は自分が作った食べ物や、自分が買ってきた食べ物に対しては使いません。
(例) クッキーを作ったので、どうぞ召し上がってみてください。
作った時に私もひとついただいたのですが、とてもうまく焼けているんですよ。(NG)
- ◇ 「頂戴する」はもらうと食べることをへりくだって言うという意味がありますが、物をくれるよう・また何かをしてくれるよう、親しみを込めて相手に促す言葉でもあります。文末に付けて使う「頂戴」は現代ではカジュアルな響きがあります。
例えば、「お菓子頂戴」「それ安く売って頂戴」は元々は丁寧な表現でしたが、現代ではとてもカジュアルなニュアンスがあり、目上の人に使うのは不適切です。

参考リンク：<https://eigobu.jp/magazine/choudai>

「食べる」の謙讓語使用例

- ・取引先の社長の家に招待され、勧められた食事をいただきました。
- ・奥様の手料理をいただいたら、おいしくて感激しました。
- ・鯛焼きは私の大好物でしたので、さっそくふたつも頂戴しました。



1.3.1.1-17「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い

「食べる」の謙讓語を正しく使うための注意点

◇「いただきせていただきます」は誤った表現

「いただきせていただきます」は、「食べる」の謙讓語「いただく」をさらに丁寧な表現にした「二重敬語」になります。口癖で思わず言ってしまう場合も考えられますが、言葉が与えるニュアンスもくどく、敬語の使い方としても誤りとなる表現です。

「いただきせていただきます」と同様に、「頂戴させていただきます」もNGとなります。

◇「食（しょく）する」は謙讓表現ではない

食に関するリポートでよく耳にする表現に「食する」があります。

一般的には「食べる」を丁寧な形にした表現だという認識があるようですが、

「食する」は「文章語的な言い回し」となるため、

「食べる」の謙讓語として使わないようにしてください。

◇「頂戴する」「いただく」は自分に対してのみに使う

たとえば、相手に対して「パスタを頂戴して下さい」「食事をいただかないのですか？」

という表現は誤りとなります。この場合は「パスタを召し上がって下さい」

「食事を召し上がらないのですか？」などの尊敬表現が適切です。

参考リンク：<https://biz.trans-suite.jp/18628>



1.3.1.1-17_「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い

👁 「食べる」の丁寧語表現：「食べます」

◇「食べます」

「食べる」の丁寧語は「食べます」です。相手が目上の人かどうか、謙讓語を使うべき人物であるかなど、状況的に問題ではない場合は丁寧語である「食べます」を使います。話している相手や周囲の状況からみて丁寧語でも失礼のない場合は「食べます」を用いましょう。

参考リンク：<https://biz.trans-suite.jp/18628>

「食べます」の使用例

- 食事を勧められたので遠慮なく食べます。
- 昨日、エビフライを食べました。とても美味しかったです。
- 私たちは晴れた日に屋上でお弁当を食べます。



1.3.1.1-17「食べる」尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い



「食べる」の尊敬語・謙讓語・丁寧語の誤用例

<食事をすすめる時>

× どうぞ、お食べになられて下さい。（「お食べになって下さい」が正しい表現）

× どうぞ、お召し上がりになって下さい。（「お召し上がり」が二重敬語）

× どうぞ、いただいてみて下さい。（謙讓語を相手に対して使っているため誤り）

これら3つの誤用例の正しい表現は「**召し上がって下さい**」です。

<自分が食べる時>

× 召し上がってみます。（尊敬語は自分に対して使わない）

正しい表現は「食べます」「いただきます」となります。「いただきます」は謙讓語ですが、現代では「食べる」という言葉はあまり品の良い表現ではないという風潮が出てきているため、おおむね「いただきます」を使う場合がほとんどです。

参考リンク：<https://biz.trans-suite.jp/18628>



参考出典情報

<1>「召し上がってください」は正しい敬語？意味や使い方を例文付きで解説

<https://eigobu.jp/magazine/meshiagaru>

<2>「食べる」の謙讓語は？接待で恥をかかない使い方（例文つき）

<https://biz.trans-suite.jp/18628>

